

2019年(医学生対象)リハビリテーション医学セミナー感想文

【一般財団法人みちのく愛隣協会東八幡平病院】

●3年生

今回セミナーに参加した目的は、地域包括ケアにおけるリハビリテーションの役割を学ぶこと、そして、リハビリテーションに実際に関わる方々の声を聞くことでした。

リハビリテーションと聞いて「機能回復」というイメージが強かったのですが、理学療法士の方々が地域に出て、「予防」としての活動もされているということを知り、地域包括ケアにおいてリハビリテーションは、住民の生活維持、介護予防という点においてとても重要であり、今後力を入れて取り組むべき分野だと感じました。

また、リハビリテーションは理学療法士や作業療法士などが中心となって行っており、あまり医師が関わる領域ではないのでは、と感じていましたが、医師の医学的アドバイスと療法士の技術が相乗してこそリハビリテーションの効果が発揮されるのだと思いました。

他にも、様々なことを学ばせていただき、大変有意義なセミナーでした。

ありがとうございました。

【亀田総合病院リハビリテーション科】

●5年生

2日間お世話になりました。私はリハビリテーション科医を目指していますが、実際にリハビリテーション科医がどのようなことをしているのかを見る機会がなかったので、とてもいい経験になりました。2日間で、訓練室等リハビリテーションに使う施設の見学、嚥下造影機能検査、外来診療、他職種カンファレンス、NSTカンファ、セラピストとの勉強会、回復期病棟の見学、新患入院初診などなど、書ききれないほどのたくさんを経験させていただきました。

個人的にこの中でも、特に気付かされたところを2つあげるとすると、まず1つは病棟の各フロアに訓練室が存在することです。

各フロアに訓練室があることで、1つの大きな訓練室まで移動できない患者様にも積極的にリハビリテーションを行うことができます。また、そのフロアを担当するナースその他の職種の方々とともに、患者様がどれだけ動くことができるのか、動いてもらっているのかを目で見て確認することができます。チーム医療を実践する上で、関わる人達が目で見て状態を一緒に確認できる事の大切さは、大学病院で実習している時には気づきませんでした。

もう1つは、回復期病棟で新患初診と一緒にさせて頂いたことです。そもそも大学では急性期しか見られませんので、とても勉強になりました。何が勉強になったかといいますと、初診で行う問診がICF(国際生活機能分類)に基づいて行われていたことです。そもそもICFについて詳しくは知らなかったのですが、事前にレクチャーして頂いてから初診に臨みました。初診では患者様の疾病をもとに、個人因子、環境因子を家族の方から

も丁寧に聞き出し、機能障害、能力障害を評価し、社会的不利はどのような事かをしっかりと診察していました。このような問診は、大学で回る診療科では経験できないことです。リハビリテーション科が、どれほど患者様の生活に関わり、またその障害を取り除いていこうとしているのかを目の当たりにしました。QOL、ADL、そして患者満足にまさに直結する部分だと思いました。

今回の見学を通して、リハビリテーション科医が他職種連携の中でどのような存在にならなくてはいけないのか、また、治療方針を立てる時にどのような目線で考えなければいけないのか、少しずつ理解出来てきたと思います。これからの大学での臨床実習でも活かしていきたいです。

【東京大学医学部附属病院】

●6年生

私は1日だけの参加でしたが、国立国際医療研究センターと国立障害者リハビリテーションセンターを見学させて頂きました。そこでは、具体的なリハビリテーションはもとより、どのように考え何を行なっているのか、日々の生活と病院の繋ぎのためにどのような施設を作り、どの様にトレーニングを組み立てて行くのかといったことや最先端の機器の研究など教科書ではあまり意識の出来ない部分に気づかせて頂きました。

懇親会にても先生方とお話させて頂き、リハビリテーション科医の具体的な生活など将来リハビリテーション科医を志す私にとってとても有意義な時間を過ごす事が出来ました。

企画、運営して下さいました先生方に大変感謝しております。ありがとうございました。

●6年生

今回、リハビリテーション科セミナーに参加させて頂き、実際に手を動かして体験することで、医師となり実際にリハビリテーションを処方する際に、患者様の背景など、様々なことに留意して処方することの必要性を痛感しました。

特に印象深かったのは、能動義手、筋電義手についてでした。実際に体験させて頂くと、実用のレベルにたどり着くまでには大きな困難があり、個々人のモチベーションが習熟に大きく関わってくることを感じました。

今回の貴重な経験を糧として医師として成長できるよう、学業に励んでいきたいと思えます。

●6年生

「リハビリテーション医学に興味を抱いており、勉強する機会を求めてはじめて参加させて頂きました。一番印象に残っているのは、装具外来です。小児から大人まで幅広い年齢層の患者さんが訪れ、それぞれの病歴・生活背景をふまえながら患者さんの未来を見据えて対応を提案するという姿勢が非常に勉強になりました。装具を実際に体験させて頂き、どのように使用するのかを助言したり、時には使ってみせることで、患者さんが使い続けてくれるモチベーションに繋がるように接していらっしゃるところに先生方のプロフェッショナルリズムを感じ、感銘を受けました。どの先生方もとても

親切にご指導くださったので、リハビリテーション医学について学ぶ貴重な機会となり、大変感謝しております。ありがとうございました。」

●初期研修医 1年

今回、初めて夏季セミナーに参加させて頂きました。恥ずかしながら、今まで、リハビリテーション科について、どんな事をやっているか全く知らなく、セミナーを通して少しでもリハビリテーション科医について知ればという思いで参加しました。3日間という短い日数でしたが、3つの特徴の異なる病院を見学でき、自分が想像していた以上に、リハビリテーション科は幅広い領域で、そして患者に寄り添える診療科なんだと感じました。夏季セミナーで良かったと思ったことは、若手から上の先生まで、つまり最初からリハビリテーション科に進んだ先生や別の専門領域を持った上でリハビリテーション科に転科した先生の話の聞いたのが、今後、自分の進路を決めていく上で良い経験だったと思います。お世話になった先生方ありがとうございました。

【健和会病院】

●2年生

AM 実習内容

- ・リハビリテーション見学（理学療法士）
- ・新規入院患者の診察
- ・嚥下内視鏡

リハビリテーションの見学では脳梗塞の方で話すうちに、その人の辛さ、大変さがとても感じられました。「自分だけ若いのにどうして…」のような言葉から、辛さを実感しました。さらに、一人ひとり体を動かすときの癖があり、それを一人ひとり治しながらリハビリテーションをしていることで患者さん個人をよく見て大切にしていることが分かりました。

PM 実習内容

- ・リハビリテーション見学（作業療法士）
- ・外来診療（嚥下機能の評価）

午前中は理学療法士さんのリハビリテーションを見学しましたが、午後は作業療法士さんのリハビリテーションを見学しました。違いは身体的か、より生活的かということが分かりました。作業療法士ではより生活を想定して思っていたより細かいところまで訓練できるようになっていて驚きました。外来見学では1年前の実習より難しいということを実感しました。診察し分析して適切な治療を提案する、この流れが自分にとってはとても難しく感じ、さらに先生はとても早く行っており、その中で家族とも話し、生活にも触れながら話していて、これが医師の凄さかと感じました。そこには看護師さんとの連携もあり、ゆえにスムーズなのだと思います。

全体を通して

今日一日リハビリテーション科を見学して、色々な職種の方を見ることができました。その中でも医師の難しさを特に実感しました。大学で少し医学の勉強した段階で実習してみると患者さんを診る前に画像などから色んな面で推測することがどれだけ苦労するのかが分かりました。それだけではなく、ただ病気を診断するだけでなく、患者さんや家族との接し方も非常に安心するような接し方をしており、そんなに多面を診られるのだなと思いました。外来にきた患者さんたちが部屋を出る時はみんな笑顔だったのが印象的でした。患者さんや家族の方にする説明がとても丁寧でした。理学療法士さんや作業療法士さんにつかせてもらって職種の違いを理解できましたし、多職種が交じり合う大切さも感じる事ができたと思います。仕事の分野が重なっている部分もあり、その仕事にしかできないものもあり、それを上手く振り分けることで医療ができているのだなと思いました。今日一日、有意義な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

【長野厚生連佐久総合病院】

●6年生

今回実習させていただいたリハビリテーション科では、装具外来やテクノエイドの見学をはじめ、歩行や嚥下、運転技能の評価についてなど興味深いお話も多く、大変勉強になりました。その中でも特に印象に残ったのは、スタッフの方々が患者さんに合わせて様々な道具などを手作りされていたことでした。患者さんの持つ能力の中でいかに快適に自分らしく暮らしていくかをサポートするのがリハビリテーション科の魅力であり、その同じゴールに向かってスタッフの方々が至る所に創意工夫を凝らして生活をサポートしようとしている一体感と、良いアイデアをどんどん取り入れていこうという病院の雰囲気がとても素敵だと感じました。私もこのような環境で、スタッフの方々や患者さんと同じゴールに向かって、意見交換し時に刺激し合いながら研修生活が送ればという思いが強くなった実習でした。

【浜松市リハビリテーション病院】

●6年生

2日間という短い期間でしたが、リハビリテーションを専門とする病院ではどんな医療が行われているのか、また、リハビリテーション科の先生方がどんなお仕事をされているのかを見学させていただき、大変勉強になりました。お忙しい中、貴重なお時間をさいていただきまして、本当にありがとうございました。暑気払いの飲み会でも、先生方とたくさんお話しさせていただくことができ、とても楽しかったです。三方原病院の見学でも、いろいろと吸収して帰れるようがんばります。